

“津久井観音霊場巡り” その7

7日目 (H19, 2007/07/06 金) バス&歩き

自宅 (am11:51 発) →バス三ヶ木→(2.06km)―第34番;宗安寺(準備中;建築中) 0.55km 第31番;
安養寺 2.61km 第32番;光明寺 2.22km 第33番;来迎寺 2.55km 第37番;根本観音堂―2.56
km―第41番;大蔵寺―5.03km→水の苑地経由自宅 (pm16:23 着) 合計 17.58km

梅雨の中休みなのだろうか、日中はかなり気温は上がってきたが、空気は案外カラリとしており、外歩きをしても少しもきつくない。

バスで三ヶ木まで行き、本日最初の札所“宗安寺”を目指す。情報では“森の観音堂”(長竹の関交差点近くの光明寺と来迎寺の中間辺りに在る)が、34番札所を脱退したため宗安寺が34番札所を務めるとのことだったが、今年の巡礼は準備中で出来ないとのことなので、場所だけを確認するために宗安寺を訪れてみることにした。

お堂はすっかり取り壊され、境内は整地され、線引きがされている状態だったが、小さな山門には六地藏尊だけが残されており、これがないとここがお寺だったとは、誰も気づかないかも知れない。来年、子歲の中開帳には、真新しい観音堂にお参りできるのかなと楽しみにしながら、六地藏尊だけにお参りし、次の札所を目指すことにした。



31番札所“安養寺”は宗安寺からすぐ近くの所にあった。急な階段を登っていくと、寂しいことに、雑草が生え放題の境内はひっそりと静まりかえっていた。右手には戦没者の立派な供養塔が見える。お堂の扉がガラス張りのお寺だったので、内部の様子が丸見えで、きれいに整理されている様子がよく見えた。此のお寺も無住が長く続き、ここからかなり離れた石老山の顕鏡寺が兼務しているそうだから、手入れが行き届かないのも仕方ないかと妙に納得する。



第31番 安養寺(青山) 千手観世音菩薩

毘盧山安養寺(あんようじ)。高野山真言宗。本尊は不動明王。新編相模風土記には、毘盧山観音院と号し、古義真言宗、善勝寺の末寺とあり。長年にわたり無住が続いた為、沿革その他不明が多い。境内には津久井町戦没者475柱の慰霊碑が建立されている。現在は第14番札所、相模湖の顕鏡寺で現在は兼務している。

唯心の浄土を此処に
安養寺己身の弥陀の
住家なるべし
ゆいしんのじょうどをここに
あんようじこしんのみだの
すみかなるべし

32 番札所の“光明寺”は、三増の合戦（1569 年）で武田軍に燈明代わりに焼き払われたあのお寺である。少し場所は変わったようだが、再興になって素晴らしい風格のお寺になっていた。後北条方の宗徒たちの再興の想いが相当なものであったのだろうことが、敵味方を隔てなく照らすご詠歌にも感じられる。この津久井観音霊場では 3 本指のお寺だと思う。



隔てなく闇路を照らす
光明寺法の燈火
常に輝く
へだてなくやみじをてらす
こうみょうじほうのともしび
つねにかがやく

第 32 番 光明寺（関）

聖観世音菩薩

金徳山光明寺（こうみょうじ）。臨済宗建長寺派。建長寺の中本寺末。本尊は地蔵菩薩。由緒には、当寺旧称は桐谷の宝積寺と号すとあり。嘉元 3 年（1305）夢窓国師が光明院を創立したが、武田北条の三増合戦の際、兵火に依り堂宇全焼。その後、桜野の地に再建し、金徳山光明寺と改称された。寺には貴重な古文書や 16 羅漢絵図等の多くの什物が遺されている。

33 番札所“来迎寺”へは少し道に迷いながらたどり着く。途中、串川の町並みの整然ときれいなことには、歩いていて心地よかった。今でも昔ながらの商家が軒を並べる風景はとても気持ちがいい。きっと道路が新しくなった補償で、きれいにしたお店が並んだせいかも知れない。日本の景色から消えていった、趣がある町並みにホッとさせられながら、33 番札所；来迎寺にようやくたどり着く。屋根がお寺の特徴をしていないから、遠くからでは見つかりにくいお寺だった。ここも今は無住とのことで、檀家らしき人が掃除をしていたが、本来ならばここが霊場打ち止めの 33 番札所なので少し寂しい気がした。ゆっくり読経しあとにする。



第 33 番 来迎寺（長竹）

聖観世音菩薩

長竹山来迎寺（らいごうじ）。臨済宗建長寺派。本尊は阿弥陀如来。新編相模風土記には、「長生山」と号し、心香妙清（雲居寺 2 世）和尚、貞治 6 年（1367）創建とあり。現在の山号は長竹山であるが、明治 3 年の村明細帳には長生山来迎寺とあり。再度の火災に遭ったが 500～600 年前の作と推定される聖観世音菩薩立像が安置されている。現在は無住であるが、第 9 番札所の観音寺が兼務している。

萬代の老いせぬ近い
長竹に御影新たに
拝む来迎
よろずよのおいせぬちかい
ながたけにおみえあらたに
おがむらいこう

こから 37 番“根本観音堂”まで、普通に県道を行っても面白くないので、串川橋を過ぎた辺りから左に曲がり、アイダエンジニアリングの津久井工場を目指すことにした。登り坂を上りきると金原の工業団地には簡単に出ることができた。ここまできると、見慣れた城山が何処からでも確認できるから、全く地図などいらない。途中に“隠れ沢”なる旧跡看板が掲示してあった。武田軍が北条方の津久井城軍に備えて、1200 の兵を潜ませていた沢が此のあたりらしい。とうもろこしの穂に火を放ったりして大軍に見せかけ、津久井城軍を攪乱していた兵達のことである。この陽動作戦のお陰で津久井軍は、易々と武田軍の帰還行軍を見過ごす結果になってしまったのである。



根小屋小学校前を通り、給食センターの横道から 37 番札所；根本観音堂に到着した。ここは普段の散歩のときに、見慣れていた観音様なので驚かないが、今回の巡礼で一番小さな観音堂である。北条氏にとっては、大事な津久井城の足元なのに、こんなに簡素な観音堂はとても解せないと思っていたら、廃寺となった観音菩薩を根本組に移し、根本の人々がここに守護神として祀ってきたようである。ご本尊は、今では少し上の方にある集会所に安置されているとのことである。その集会所にも廻ってみたが、残念ながらご詠歌のようなものは掲げられていなかった。

第 37 番 根本観音堂（根本）

如意輪観世音菩薩

在家札所、根本観音堂（ねもとかんのんどう）は、当地にあった天台宗行人派で 羽黒山願応寺の末寺、城沢山日応寺（寛永 11 年、1634 年建立、本尊大日如来）の境内にあって、廃寺と成った後は、根本組中に移行され、根本集落の守護仏として現在信仰、崇拝されている。霊場巡礼の納経、参拝等は観音堂より 100m 上段の根本集会所にて取り扱われる。

霧晴れて城沢山の
観世音世界の平和
願い給わん
きりはれてじょうたくさんの
かんぜおんせかいのへいわ
ねがいたまわん

ここからは、津久井湖湖畔の“大蔵寺”を目指す。津久井湖城山公園に入り遊歩道を横断し、十和ちゃんが夢中だった滑り台を横目に、小網の中腹から 41 番札所：大蔵寺に入る。

山門前で庭師 3 人がお茶をしているところだったが、気持ちよく入門させてくれた。本堂とお釈迦像に読経しここを後にする。

有難や麓を照らす
大蔵寺宝の山に
響く川音
ありがたやふもとをてらす
だいぞうじたからのやまに
ひびくかわおと



第 41 番 大蔵寺（小網）

聖観世音菩薩

城木山大蔵寺（だいぞうじ）。真言宗智山派。大永 4 年（1524）に開山、権大僧都圓慶法師によって創建された。本尊は不動明王である。昭和 36 年城山ダム建設の為、城福山泉蔵寺並びに井木山壽性院檀徒の多数が水没のため集団移

住を余儀なくされ、両寺の合併を発願、昭和 40 年合併し今の寺の名称に改称した。又、相模原市大島上台には、大蔵寺別院が建立されている。

大蔵寺の入口から見えた、津久井湖湖畔の湖底に何やらレンガ造りのものが見えているのが気になっていた。釣り船に降りる道を探し出し、干上がった湖底まで下りてみる。

そこには明治時代の遺産、約 120 年前の横浜水道の隧道跡が完全な形で丸見えになっていた。ぬかるむ足元に気をつけながら傍まで近づいてみると、隧道（トンネル）を通して向こう側に津久井湖の湖面が丸く見えるではないか、まるで望遠鏡のように向こうの景色がはっきり見える。トンネルの長さは 70 メートル位あると思われた。直径 4 メートル位はある意外と大きなトンネルなのだ。トンネルの中は泥で半分くらいは埋まっているが、柵が無ければ向こう側に歩いて抜けられそうな感じである。（実際はぬかるんで無理だろうが・・・）

この隧道も城山ダムの企業庁の建物下に顔を出した川尻隧道の名残りと思われた。

釣りをしにお兄ちゃんが降りてきたので、「珍しいものが見えるよ！」と隧道のことを教えてあげたら驚いていたが、湖面に大きな魚が跳ねるのを見えた途端にその場をあとにした。

この隧道の向こう側も見えないかと、花の苑池側からポイントを探してみたら、半分位が見える所が見つかった。しかし、こちら側からそこに近づくことは、全くできない所だった。

帰りに城山ダムの湖面を覗くと、水面はますます低下し、放水口近くのくぼみまで見えるようになっている。なぜか、ダムの傍にはたくさんの大きな鯉が群れを作って泳いでいるのが丸見えで、釣堀のような景色である。水が少ない割には、きれいだなと感じたのは、干上がった周辺にゴミが少なくなっているからかもしれない。水が少ないこの際にゴミ拾いでもしたのだろうか？ などと考えながら 4 時 23 分には無事に家に帰りついた。

（津久井観音霊場巡りーその 7 終わり）

